

探訪 北の風景 53

海岸に突き出す三本杉岩 檜山管内せたな町

青木和弘

瀬棚港のそばに海から突き出した三本杉岩がある。瀬棚のシンボルだ。札幌から車だと、中山峠を通る国道230号で約3時間半。夏季なら、小樽、岩内、寿都と、日本海を眺めながらのドライブも気持ちがいい。

せたな町は人口8046人（住民基本台帳7月末現在）。2005年に瀬棚郡瀬棚町と北檜山町、久遠（くどお）郡大成町の3つが合併した。当時人口が5882人と一番多い北檜山町に役場を置き、瀬棚町から「町名」を引き継いだ。そして大成町の久遠郡に加わるようになった。だから現在、瀬棚郡は、隣町の今金町だけになった。

せたな町は、日本海を北上する対馬暖流の影響を受け温暖で東北地方に近い気候だが、夏季は8月でも気温が30℃を越える日が少ないことから避暑地に最適と売り込み、自然の恩恵に恵まれ住民は人情深く濃厚と、移住も呼び掛けている。

主な産業は卸売・小売業や医療・福祉、サービスなどの第3次産業が半数以上を占め、基幹産業の漁業、農業などの第1次産業が続く。

話を三本杉岩に戻すと、三本の岩を港側から見ると南の二つは根元が繋がっていて、北の一つは独立している。それぞれ名前があつて、写真左から懸島（かかりじま、高さ18m）、蠟燭岩（ろうそくいわ、高さ24m）、三本杉岩（高さ31m）という。

地質学的にこの沿岸は、黒っぽいかんらん石玄武岩の岩脈が続いている。これは1220万年前〜950万年前の火山噴出物で、水で冷えて壊れたマグマだという。三本杉岩などの岩峰はこの火山噴出物が突き出した火道の名残だと思われる。周辺は断崖が続く奇岩が多く見られ、「狩場茂津多（かりばもつた）道立自然公園」に指定される景勝地である。

茂津多トンネルを抜けて後志に向かうと島牧村にはモッタ海岸温泉や千走川温泉、宮内温泉など源泉掛け流しの名湯がある。江差方面に向かうと乙部温泉や八雲の見市温泉、八雲温泉おぼこ荘など、私の大好きな温泉があるから、宿や温泉選び

も楽しい。

せたな町の歴史は古い。瀬棚町史などによると、室町時代の1529年（享祿2年）、当時、セタナイ（後の瀬棚）のアイヌは、毎年冬季には奥尻島に出稼ぎし、オットセイ猟に従事していたという記録がある。セタナイに定住が始まるのは1532年（天文元年）とされ、安土桃山時代の1601年（慶長6年）にニシン漁が乙部町で始まり、8年後の同09年にはセタナイにも「場所」が設けられた。

大成地区にある太田山神社を、地元の人たちは「太田神社」と呼ぶ。創立は室町時代の1441年（嘉吉元年）〜1443年（嘉吉3年）とされ、猿田彦大神を祀り、航海の安全と霊神の加護を祈った。修験僧の円空がこの地を訪れ多くの仏



宮太田山神社の最後の岩壁昇りは、まるでロッククライミングだ。高所が苦手な人は絶対に無理。最初の石段でもかなり厳しいだろう

せたな町観光協会提供



瀬棚のシンボル三本杉岩。写真左の南側に瀬棚港、反対側の北に三本杉海水浴場がある



甲田菓子店の瀬棚名物「岩シュー」は賞味期限1時間。買ってすぐ食べると、岩に見立てたクッキーとシュー生地の食感を楽しめる

像を彫ったと伝えられている。道道740号沿いに最初の鳥居が建ち、平均45度の急な長い石段が始まる。それを過ぎると獣道のような山道が続き、途中に仏像を置いた大石や女人堂があり、最後に高さ7mの北尋坊の崖が立ちはだかる。恐ろしい高度感だ。そこに設置された鉄輪とロープを使って登ると本殿が建っている。付近一帯はヒグマやマムシ、ブヨ、蚊、ハチにも注意が必要だろう。

せたな町の名物に甲田（こうだ）菓子店の「岩シュー」がある。三本杉岩のごつごつとした岩を表現したシュー生地で、カスタードクリームは150円だった。ほかにも、いろいろな味がある。賞味期限は1時間。生地の食感を楽しむには、買ってすぐ食べるのが鉄則。なかなか美味しい。同店は明治33年創業の和菓子店だが洋菓子もある。店の住所はせたな町瀬棚区本町343の1、電話0137・87・3065。